



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

2月号会報

202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2014年(平成26年) 2月1日(土)

NO. 150

田島康賢研究員の「出張

二月十四日(金)

午後七時〜八時三十分

経営者の集い

「朝礼の効用。パート2」

前回のパート1に続き企業朝礼の効用についてDVD鑑賞も交えながらのセミナーです。

さらに、ビジネスマナーである挨拶の大切さだけでなく話し方の心や心の向け方などを、コミュニケーションワークを通して学び、職場はもろろんのこと、日常生活における人間関係のよりよい構築をはかるヒントを学びます。

二月十五日(土)

午前十時〜十一時三十分

純粹倫理勉強会

『純粹倫理原論』

純粹倫理を深く学ぶ時間です。倫理の正しい理解を深めましょう。

二月十六日(日)

午前十時〜十一時三十分

倫理セミナー

「勇者の選択」

東日本大震災での被災体験を語る―

東日本大震災が起きた当時、被災地を担当していた先生は会員をはじめ、多くの人々の

死に直面し、大きなショックを受けました。しかし死の意味を模索する中で「犠牲者」という捉え方からの脱却を試みました。その手がかりは何だったかという話を話されます。私たちが共に考えていきましょう。

お友達をお誘い下さい

.....

お雑煮会

一月五日(日)オフィスにおいてお雑煮会が行われました。

新年を迎えてはじめての朝の集いの後のお雑煮会は先ず乾杯で今年の抱負を祝しました。それから恒例になつております倫理ならではの滝川さん、前田さんが用意してくださったスープのお雑煮をいただきながらそれぞれの郷土の味、御餅のいろいろなどのお雑煮談議でふるさとに思いをはせ、おいしい楽しい時間をすごしました。

そして年の初めの歌で持ち寄りのギフト交換をして賑わい、最後に会の発展を誓い三本締めでお開きになりました。なお二〇一三年の皆勤賞は橋勝雄会長、大島藤江さん、氏家正子さんの三名でした。(出席者二十七名)

大掃除

十二月二十九日(日)二〇一三年最後の朝の集い終了後恒例の会場の大掃除を致しました。

男性会員は梯子に乗り、高い所、ガラス窓を磨き、女性会員は冷蔵庫の掃除などを行いました。又なかなか出来ずになりました不使用になった書類、月刊誌、パンフレット等々を思い切つて処分する事になりました。

倫理会場はショッピングセンターの中にあり、他のオフィス店舗、レストラン等と合同で使う大きなゴミ箱はありますが、リサイクル用の箱はありません。

それで会員で手分けして持ち帰り各家庭でリサイクルとして捨ててもらふ事にしました。協力してくれた会員に感謝です。

大掃除のすんだ会場で私たちも清々しい気分、美味しく幕の内おべんとう、みかん、お菓子を頂き、新しい年に元気で再会する事を約束し、散会しました。

(出席三十二名)
(明園美枝子記)

「優先順位」

さわやかに生活し、効率よく仕事をする秘訣があります。それは、気づいたことをうやむやにしないことです。

具体的には、気づいたらすぐ行う「即行」と、気づいたら即やめる「即止」です。気づいたことをその場で実行するだけが、即行ではありません。

すぐにはできない場合に「いつかやろう」とうやむやにせず、メモを取るなどして処理することも、即行に当てはまりません。

気づきを実行に移すには、今行っている事柄の手をいったん止めて、頭の中で優先順位をつけることがまず最初です。これも「即止」に当てはまります。

①今すぐやること、②その次でいいこと、③よく考えてからすること、の三つに分けて、①であれば、すぐに行います。

②や③であれば、メモを取って処理をしましょう。この習慣を積み重ねて、実行していけば、仕事のスピードや判断力、決断力が飛躍的に磨かれていきます。

気づいたことをうやむやにせず、さわやかな気分生活しましょう。

今日の心がけ
即行動しましょう
(『職場の教養』二〇一三年十一月二十六日)

おめでとーうございます

『しきなみ』一月号

群螢集（西東京・海外）

入選 草野律子

真砂集（西東京・海外）

入選 摺木洋子

『秋津書道』一月号

競書

三席 滝川政和 芸術部

一席 梅本豊造 高等部

七席 咲田静子 々々

入選 堀井幸江 々々

六席 前田グレース一般部

入選 脇山由希 々々

入選 草野律子 々々

入選 枅中恵美子 々々

入選 小倉治望 々々

入選 竹内康子 々々

入選 ノーリスてるみ 々々

調和体

入選 滝川政和 芸術部

二席 咲田静子 高等部

入選 梅本豊造 々々

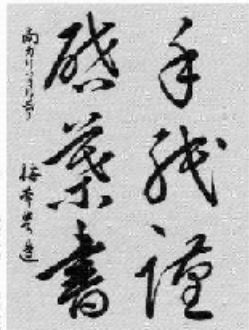
（人の部）

（東京）行書

楷書

（人の部）

（東京）



1席 梅本 豊造

布置よくやわらかな筆の動きが生きている。



2席 南カリフォルニア 咲田 静子

『しきなみ』の（選を終えて）抜粋

意味の伝わる短歌作りを心掛けましょう。他人が読んでもわかるように作ることが大切です。これは自分中心の考え方から、相手を優先する考え方になる練習です。つまりわがままを捨てて、相手に合わせる勉強なのです。どうすれば相手にわかつてもらえるかを常に考えて短歌をつくりましょう。（中村正生）

羅府新報新年懸賞文芸

短歌部門

人位 ホン史子

佳作 松永典子

佳作 摺木洋子

しきなみ短歌

おもてなしじえじえと驚く今でしょ 今年の大賞四倍返し 飯田隆

柿の葉は紅葉になり緩やかな風にあおられるく
り舞い落つ 梅本豊造

孫四人歳の差十一開きすぎかされど集えば調和
のとれて 梅本和子

前後右に左に我が影と二人づれなる落葉ふみつ
つ 門園美枝子

男孫の補助輪はずした自転車のサビ黙々と磨く
我が夫 ホン史子

黒アゲハ秋の陽受けてポツポツと歩む男を追い
越してゆくなり 松永典子

花びらを反らしよじれて咲き終える紅き炎のシ
クラメンかな 草野律子

我を見る夫の形相苦しそう術後の傷に激痛走る
摺木洋子

まだ明けぬ凍える様なベランダに白き結晶ちら
ちらと舞う 松元依子

流麗なる寸松庵色紙のかな手本学べる幸せ思
い つ筆取る 滝川歌子

共々に健康ねがう我が一家すこやかなれと亡き
母に願う 奥本洋子

二年ぶりの故里の夜は雨にぬれしつとりと吾を
包みこみたり 杉野和子

キッチンを改造されて容れなほすいららないもの
が次々と出る 長谷川松子

かたわらで百円とばしと言いながら年老いた姑
ぞうきんを縫う 塩出笑子

突然の夜の停電まず探す昔はローソク今はスマ
ホを 伊澤潤子

日中の暑さ去りたる増上寺影の伸び来て大殿覆
う 矢口裕司